

火災 被害を最小限に

火災は日常でも、また地震等の災害によっても発生することがあります。火災に対しては日ごろからの注意と発生した場合の対処が重要です。被害を最小限におさえるために、家族、地域ぐるみで防火意識を高めましょう。

初期対応の3原則

●火災になった時の対処

火災になった時の対処は「通報」「初期消火」「避難」が重要です。ただ状況によって優先順位は異なりますので、逃げ遅れないように、あわてず冷静な判断を心掛けましょう。

行動1 **早く知らせる!**

火災になった、火災を見つけたら「火事だあ!」の大声で近隣に知らせるとともに、消防署への119番通報を行いましょう。

行動2 **早く消す!**

初期の火事は消火が可能な場合があるので、消火器や水・座布団や毛布などを掛けて消火しましょう。但し無理な消火はやめましょう。
※火事の種類によって消火方法が異なります。

行動3 **早く逃げる!**

天井まで燃え広がると個人での消火は不可能です。速やかに避難しましょう。

覚えておこう! 消火器の使用方法

- 消火器取り扱い訓練のときは、積極的に参加して体験しましょう
- 消火器の使い方

- ①安全ピンに指をかけ、上に引き抜く。
- ②ホースをはずして火元に向ける。
- ③レバーを強く握って噴射する。



●消火器の構え方

- ①火の風上まわり、風上から構える。
- ②やや腰を落として、低く構える。
- ③熱や煙を避け、炎には真正面から向き合わない。
- ④炎を狙うのではなく、火の根元を掃くように左右に振る。



覚えておこう! 火元別の消火方法

◆コンロ

- 油鍋に水をかけるのは厳禁。
- 消火器は離れた位置から、鍋の全面を覆うように向けて噴射する。
- 消火器がない場合は、シーツやバスタオルをぬらして手前からかぶせ、空気を遮断する。

◆ストーブ

- 消火器は直接火元に向けて噴射する。
- 消火器がない場合は、シーツや毛布などをぬらして手前からすべらせるようにかぶせ、空気を遮断する。

◆たばこ

- 寝たばこなどにより、布団などの綿製品が焦げた場合は、消したつもりでも見えないうちに火種が残り、再び燃えだすことがあるので、浴槽などにつけ完全に消す。

◆カーテン・ふすま・障子

- カーテンは燃え広がる前に水をかける。できればレールから引きちぎり消火する。
- ふすまや障子などはけり倒して、踏み消す。その後、水をかけてしっかり消火する。

◆たき火

- 消火器を使う。消火器がない場合は水や土で消す。
- 水の準備ができていない場合は、ほうきや木の枝でたいて消し、その後、水でしっかり消火する。

◆電気器具

- いきなり水をかけると感電の危険があるので、コンセントかブレーカーを切り、消火器で消火する。

逃げるタイミングは天井への延焼!

避難する目安は、天井まで火が燃え移ったとき。火が天井に燃え移るまでの間は初期消火に努めますが、もし炎が天井に燃え移ったら、決して自分で消火をしようとせず、迷わずすぐに避難してください。

防災チェックポイント

「119」のかけ方を覚えておこう

※通報時に伝える内容は、下記を参考に

- ①火災であることを伝える
- ②火災現場の場所(住所や目印・ビルの名前)
- ③何が燃えているか
- ④けが人や逃げ遅れている人がいるか
- ⑤かけている電話番号(携帯電話・スマートフォン場合はその番号)
- ⑥通報者の名前



※携帯電話・スマートフォンから通報する場合

携帯電話・スマートフォンからの119番通報件数は、その普及に伴い年々増加しています。GPS機能付きの携帯電話・スマートフォンからの通報については、「発信地表示システム」により通報者の真近住所が示されるので場所の特定がしやすくなりますが、建物内からの通報の場合、位置情報の精度が落ちて場所の特定が難しいことがあります。携帯電話・スマートフォンから通報する時は、次の点に注意してください。

- ①近くの目標物(学校・公民館・信号機・ビル・店舗・コンビニなど)を確かめてから通報する。
- ②自動車からの通報は、安全な場所に停車してからかける。
- ③途中で切れないように注意する。
- ④高速道路では、まず「上り」か「下り」かを確かめ、道路わきの小さな看板の数字があれば伝える。
- ⑤携帯電話・スマートフォンからの通報は場所の特定が重要。あせらず、的確に伝える。



火災 避難と予防

もっとも大切なのは、身の危険を感じたときに一刻も早く避難することです。服装や持ち物などにこだわらず、次のポイントを押さえながら、できるだけ早く避難してください。また、一度逃げ出したら、絶対に戻らないようにしましょう。

避難ポイント

◆2階から脱出するときは

ロープや縄ばしごを使って避難する。シーツやカーテンをつないだものでも代用できる。やむを得ず飛び降りるときは、布団やマットレスなどクッションになるものを落とす。

◆地下街にいるときは

壁際に身を寄せ、煙からすばやく逃げる。出口は約60メートルごとにあるので、壁つたいに避難する。パニックに巻き込まれないよう係員の誘導に従う。

◆ビルにいるときは

上の階から出火した場合は、階段を使って下へ逃げる。下階から出火した場合は、外階段から逃げる。もし上へ逃げられないときは、屋上の風上側で救助を待つ。エレベーターは絶対に使わない。

◆炎の中を通るときは

迷わずに一気に走り抜ける。ぬらしたシーツを体全体に巻きつけると効果的。

◆デパートなどでは

デパートやホテルなどの商業施設で火事になったときは、店内の放送や誘導員の指示に従う。避難口がわからない場合は、誘導灯に従って壁つたいに避難する。

◆閉じ込められたときは

ドアのノブが熱い場合、廊下は高温状態の危険性もある。危険な場合はドアから出ず、ぬらしたタオルなどをドアのすき間などに埋めて防衛し、窓を開けて逃げ遅れたことを外の人に知らせる。

防災チェックポイント

本当に恐ろしいのは煙です!

火災で発生する煙には、一酸化炭素などの有毒ガスが含まれています。吸い込むと中毒などにより命を落とす危険性があるので、次のポイントに気をつけながら避難しましょう。

- ぬらしたタオルやハンカチなどで、口と鼻を覆う(無理な場合は、ネクタイや衣類で代用する)。
- 短い距離なら息を止め、一気に走り抜ける。
- できるだけ姿勢を低くする。
- 視界が悪いときは壁つたいに避難する。



覚えておこう! 火元別の予防と対処

ほとんどの火災は、私たちが注意することで防ぐことができます。火災を防ぐためのポイントをきちんと学び、日ごろからみんなで注意し合うようにしましょう。

◆コンセントからの出火

コンセントからの出火は日ごろの予防で防ぐことができます。ほこりやゴミがたまっていたり、多くのプラグが差し込まれていると発火の原因となります。定期的な掃除を行い、多くのプラグ差し込みをやめましょう。

◆タバコからの出火

灰皿にすいがらがたまっていると消したつもりでも火種が残っていることがあります。火の始末は確実にしましょう。また寝タバコは絶対にやめましょう。

◆ストーブからの出火

火がついた状態で動かしたり、洗濯物・紙などの燃えやすい物が近くにあると出火の原因になります。スプレー缶なども熱せられると爆発の危険性があるので近づけないようにしましょう。

◆金魚ばちなどからの出火

太陽光線があたって、金魚ばちやペットボトルがレンズになって出火することがあります。このようなレンズの役目をする物は、置き場所に十分注意しましょう。



◆コンロからの出火

- てんぷらなどの揚げ物を調理する場合、油に火が付くことがあります。また、鍋の空焚きによる出火も多くみられます。調理する場合は少しの間でも目を離さないようにしましょう。
- 出火した場合には水を掛けて消火するのではなく、必ず消火器で消しましょう。

火災への備え

住宅用防火機器を活用しよう

火災の発生を早く知らせる【住宅用火災警報器】
煙や熱を感知すると、警報音で知らせてくれます。すべての住宅に設置が義務づけられています。

火災防止に【安全装置付調理器具】
火災の熱を感知すると、自動的にガスの供給を止めます。



火災の被害を最小限に

【防火品】

火がついても燃え広がりにくい製品。カーテンやカーペット、寝具、エプロンなど。

【住宅用消火器】

小型で軽量タイプもあります。

【簡易自動消火装置】

火災の熱を感知すると、自動的に薬剤を放出します。

【住宅用スプリンクラー装置】

火災の熱を感知すると、部屋全体に放水します。

